

奈良市学童野球大会に関する注意事項

奈良市軟式野球連盟

- 1 2020年度公認野球規則及び、全日本軟式野球連盟規則（学童野球に関する事項）によって行う。
- 2 試合は、トーナメント方式で行う。
- 3 試合は組合せ1、2、3回戦は、5回戦とし、試合時間は70分以内とする。5回終了もしくは70分を経過し、同点の場合はタイブレーク方式を1回行う。それでも勝敗が決まらない場合は抽選とする。準決勝以降（最終日）は原則として7回戦、90分。同点の場合はタイブレーク方式を1回行う。それでも勝敗が決まらない場合は抽選とする。なお、決勝戦は投手の投球制限を遵守の上、勝敗が決するまでタイブレーク方式を続行する。
- 4 1、2、3回戦は3回以降7点差が生じた場合のみ、準決勝以降は3回以降10点差または5回以降7点差が生じた場合のみ、コールドゲームを適用する。
- 5 投手の投球制限は、1日70球（4年生以下は60球）以内とし、規定投球に達した場合は、その打者が攻撃を完了するまで投球できる。（全日本軟式野球連盟 競技者必携2020改定による）
- 6 暗黒、降雨で試合が中止となった場合、5回終了以降（1、2、3回戦は3回終了以降）であれば正式試合とする。
- 7 選手交代は監督が告げる。作戦タイムの場合は、監督が出てきて速やかに指示すること。タイム時間は1分間を限度とする。但し、審判員が必要と認めた場合は、この限りではない。
- 8 守備時間が長い場合（20分を目安）には健康管理を考慮し、審判員の判断で給水タイムを設けることがある（ロスタイムとして処理）
- 9 投手の変化球は、反則投球とする。
 - ①変化球に対しては、ボールと宣告するとともに投げないように監督および投手に厳重注意する。
 - ②同一投手が同一試合で再び変化球を投げた場合、その投手を交代させる。
 - ③その投手は他の守備位置につくことは許されるが、同一大会で再び投手になることは出来ない。
 - ④変化球の判断は、審判員によることとし、抗議は、一切許されない。
- 10 試合球は、内外ボールJ号を使用し、主催者で用意をする。
- 11 同じチームの各プレーヤー（監督・コーチを含む）は、同色・同系・同意匠のユニホーム（帽子・アンダーシャツ・ストッキング）を着用すること。
- 12 背番号は、選手は0番から99番とし、主将は10番、監督は30番、コーチは29番、28番とする。
- 13 捕手は連盟公認の捕手用ヘルメット、マスク（スロートガード付）、プロテクター、レガース、ファウルカップを必ず着用すること。
- 14 打者、次打者、走者、ベースコーチ及びボールボーイは、両側にイヤーフラップのついた連盟公認の軟式野球用ヘルメットを必ず着用しなければならない。なお、ヘルメットは9個以上準備すること。
- 15 金属製バットの使用は、JSBBのマークの付いたものに限る。
- 16 金属製スパイクの使用は認めない。
- 17 責任者が参加しないチームは、出場を認めない。
- 18 ベンチに入れる者は、責任者（代表）、監督、コーチ2名、スコアラ1名、選手20名以内とする。他に健康管理女性2名もベンチに入ることを認める。（スポーツができる服装とすること）但し、選手は最低10名以上参加させなければならない。9名以下の場合は棄権扱いとする。
- 19 試合開始時刻になっても試合会場に到着しないチームは、棄権扱いとする。但し、不測の事故等の事情により試合時刻に遅れた場合、役員により協議の上決定する。
- 20 ベンチは、組合せ番号の若い方を一塁側とする。
- 21 試合会場における競技上のルールは、競技場毎に審判員から説明を行うこととする。
- 22 審判員の判定に対しての抗議は、一切認めない。但し、審判員が規則の適応を誤った場合は認める。
- 23 攻守交代の時は、必ず試合球を投手板上に置くこと。
- 24 ベンチ内で電子機器類（携帯電話、パソコン等）、携帯マイクの使用を禁止する。また、メガホンは1個に限り使用を認める。
- 25 打順表の提出は、その日の第1試合の場合は開始予定時刻の30分前に、監督と主将が持参し攻守を決定する。第2試合以降は、前試合終了後行う。
- 26 試合中不正選手が発覚した場合は、直ちに没収試合とし相手チームの勝ちとする。試合終了後に発覚した場合は、次の対戦相手に勝ちを与えるものとする。
- 27 チーム又は、自応援団から暴言を吐いた場合、理由の如何に拘らず没収試合とする。処分については、後日役員協議の上決定する。
- 28 大会中の負傷、疾病については、応急処置を施すが、それ以外の責任は負わない。
- 29 雨天の場合は、午前7時に奈良市学童軟式野球連盟 林（Tel.080-1467-8929）まで問い合わせてください。